

30th

1991.7 -
富山県臨床心理士会

3rd

2019.2 -
富山県公認心理師協会

富山県公認心理師協会

ごあいさつ

富山県公認心理師協会 会長 大平 泰子

富山県内に心理職の職能団体が初めて誕生したのが1991年7月28日で、2021年度に「富山県臨床心理士会」設立30周年を迎えました。2019年2月23日に会の名称を「富山県公認心理師協会」へと変更しましたので、2021年度は名称変更を起点として3周年にもあたります。

これまで、会の発展の節目である設立時、設立10周年、設立20周年、名称変更時には記念行事を開催してまいりました。しかし、2021年度は多くの人を集めてのイベントを開催することが難しい状況であり、1年遅れにはなりましたが、このたび当会のこれまでをまとめて記念誌を発行する運びとなりました。

記念誌には、「鼎談 30年の歩み」と会の「沿革」、「地域とのつながり」を掲載しています。「鼎談 30年の歩み」は、2021年度の研修会において企画の一部として実施したもので、設立前からこれまでを歴代会長に語っていただきました。

会員数13名でスタートし、現在は200名の大台も目前に迫るほどに会員が増加しています。念願であった心理職の国家資格化もかない、当会も名称を変更し、両資格の職能団体として再スタートを切りました。富山大学において県内で初となる心理職養成もこの春にスタートしており、富山県の心理職をとりまく状況はまた新たなステージを迎えようとしています。

これまでの会のあゆみを振り返り、心理職の先達がフロンティアとして会を設立・運営され、県内の心理職のネットワークを構築し、多くの関係機関のみなさまや他職種のみなさまと連携協力してこられた結果として現在の状況があるのだということを知ることができました。また、当会の目的について再認識する機会にもなりました。

この場をお借りして関係の皆様にお礼を申し上げますとともに、心理職の仲間である皆様お一人お一人のご発展とご活躍を願っております。

鼎談 30年の歩み

2021年6月26日（土） 会場 富山県教育文化会館+オンライン

話し手 高野 利明（第2代会長）
山野 俊一（第3代会長）
中塩 真巳（第4代会長）
進行 田邊 裕（事務局長/副会長）

田邊 今日は、30年の歩みについて話をしていきます。私自身が30年の歩みを知らないということもありますし、この当時に会長として会の運営を引き受けてこられた3名の方に、お話を伺いたいと思います。

初代の会長は谷野幸子さんでしたが、今日はその次の会長であります高野利明さんにオンラインでご参加いただいています。つぎに、高野さんを



田邊氏

引き継いで会長になられたのが山野俊一さんです。そして、山野さんの次の代に会長になられたのが中塩真巳さんです。よろしく願います。

会員13名で富山県臨床心理士会スタート

田邊 早速ですが、富山県臨床心理士会設立が1991年7月で、会員13名でスタートということですが、高野さんはこのとき、13名の中に入っていましたよね。山野さんも。

当時、13名というのはどのような雰囲気、どのような経緯があって富山県にこの会を作ろうというふうにとまとめたのでしょうか。

高野 まず、日本臨床心理士会という全国の職能団体ができまして、その中で各都道府県にも臨床心理士会を作っていく動きがありました。それで、日本臨床心理士資格認定協会の研修会が富山で開かれることになりまして、その研修会の運営をするために県の会があったほうがいいだろうということで、集まりましょうということで、この1991年の7月に設立。設立の記念行事も11月だったんですけれども、このときにちょうど資格認定協会

の研修会が富山で開催されて、設立記念行事はそのすぐ後ですね。

設立記念行事として河合隼雄先生を講師に招いて、県民の方に、こういう講演会がありますからどうぞ出席してくださいという呼び掛けをして、そのため

に会員が動き回りました。だから、設立前からかなり地域に対する働きかけをして、それで設立という経緯になりました。

田邊 ありがとうございます。設立されたときの苦労もあったでしょうし、河合隼雄先生が講師になって講演会をされたときの様子もお聞きしたいんですけども。

高野 はい。まず、会を設立する立ち上げのときから、準備委員会を作って、その準備委員が関係機関にいろいろと説明して回っていました。ですから、臨床心理士会の設立目的の中に、地域に根差した職能団体になりましょうというのがありました。設立前から実際に行っていたと。

会員が13名でスタートしたので、こういう記念講演会をしますよと言うと、「本当に13名でできるのか」という関係者の方の声もありました。正直言って、私たちは、13名でできないことはないんじゃないかという感覚で。ただ、他の関係者の方から見ると、こういう大きな記念の行事を13名でやるというのは、相当、異様だったようですね。そのときは何も感じずに、そのままの流れの中で突っ走ったという思いがあります。

あと、河合先生ですね。このときちょうど、先ほど言いました認定協会の研修会の講師として来県されていたので、その機会をいただいて。あと



高野氏

は空いている時間を、うまくこちらの記念行事に
お願いしようということで、すんなりと話がまと
まったんですね。河合先生はお忙しい方だったの
で、こういうアポイントメントを取るのは大変だっ
たんですけども、既にそこのところができていた
のが、非常に都合が良かったかなと思います。

講演会は盛会でした。最初に、チケットを1人
1000円という形で有料にしたんですよ、全くお金
がありませんでしたから。「本当に売れるのかな」、
「売れなかったら準備委員で均等割りして経費を自
腹で出そう」という話もしていました。実際には、
もうお金が余るくらいになりまして、その余った
お金で、その翌年に『サイコロジストとやま』を
創刊することができました。

田邊 会報ですね。

高野 河合先生の話は、「何かいろんなこと刺激さ
れたよ」、「私、思い出したわ」ということを感想
として言っていた看護師さんがいたので、それぞ
れのいろいろなところを刺激するような内容だっ
たのかなと思っています。

田邊 ありがとうございます。13名でこの講演会
を開かれて、礎を築かれたのがこの時期だったん
だなと思います。

はじめてのスクールカウンセラー派遣

田邊 1995年にスクールカウンセラー事業が国で
立ち上がり、富山県でもスクールカウンセラーが
初めて学校に派遣されたと思いますが、その頃も
高野さんが会長として進められたのでしょうか。

高野 そのときは、私は会長ではなく事務局を担
当していたような記憶がありますが、スクールカ
ウンセラーの担当理事になっていました。

最初は調査研究事業という形でスタートしたん
ですけども、初年度から教育委員会の担当者の方
と実質的な進め方の打ち合わせをしました。

初めは富山県で3名のスクールカウンセラーを
指定された学校に派遣するということだったんで
すけど、この3名も決めるのが大変だったんです
ね。かなり警戒されている臨床心理士の方もおら

れたんですよ。まだ始まってどうなるか分からない
ものを引き受けるというのは、非常に警戒するとい
う方もおられたんですね。でも何とか3名が決まっ
てスタートできました。当時、教育委員会に何回も
足を運んで、県の担当者の方と話をした記憶があり
ます。

田邊 今ではもうスクールカウンセラーは定着して
いますが、それでも初めて学校に勤務を始めるとき
はとても緊張されたと思うんですけども、この3
名の方は、本当に前例が全くない状態に入っていく
ことになったんですよ。

高野 そうですね。

田邊 初期のスクールカウンセラーの皆さんが、非
常に学校と良い関係を築いて、保護者、生徒の皆さん
にも役に立つということがはっきりしてきたという
ことで事業が拡大して行って現在に至るという話
を聞いたことがあります。そのときに学校に入ると
きの入り方ですとか、どんなふうに関係を築くか、
相談・対応をするかということについて、打ち
合わせですとか、こういうことに気を付けよう
とか、何か話し合ったことはありますか。

高野 はい。スクールカウンセラーがいろいろな情
報交換をしましょうということで集まりました。そ
れぞれの中で、学校との関係をどんなふうにつ
っていくのかということ。お互いに、3人のスクール
カウンセラーの中で支え合いながら、初めて行う事業
なので、失敗させてはいけなと。そこでマイナス
の評価が大きくなると、おそらくスクールカウンセ
ラーの事業そのものもその後の展開に影響が出るで
しょうし、スクールカウンセラーとして臨床心理士
が派遣されていたから、臨床心理士の評価にも
つながるので。

田邊 責任重大ですね。

高野 かなりいろいろな情報交換をしながらやった
記憶があります。最初にスクールカウンセラーとし
て行かれた臨床心理士は、これは全国的にもそう
なんですけど、かなり上手に学校の中に入っていった
んだなと。

スクールカウンセラーの初年度の事業が4月から
始まってもう7月ぐらいには、まだ短期間しかやっ

てないのに、来年度には増員するという話が出ていたので、そこは富山県だけではなく、全国的にも当時のスクールカウンセラーを担当された臨床心理士は上手に学校と関係を作っていたんだなと思っています。

田邊 ありがとうございます。

会の拡大と関係機関とのつながり

田邊 続いて、その高野さんから会長を引き継がれた山野さんの時代では、会が拡大していくとか、学校に限らずいろいろな機関とのつながりがあります。広がっていった時期だったと思うんですけども。

山野 10周年記念講演会のときは、会長は高野さん。20周年記念講演会で村瀬先生をお呼びしたときに、私が会長をやって。中塩さんに村瀬先生の対応をしていただいて。



山野氏

中塩 はい。

山野 この頃は、ちょうど、国家資格がどうなるかっていうことで、臨床心理士会の中でも、随分波風が立っていた時期で、そういう雰囲気かひしひしと伝わってくるような、20年だったんですね。

先ほど高野さんもおっしゃってましたように、13名で始めて、本当に脆弱な会でどうなるかっていうことでスタートしたんですけども、先輩の心理の方たちがいろんな所で根を下ろしてくださっていたというのがあって。私たちが会を作るときには、富山県精神衛生協会ですね、今は精神保健福祉協会になっていますけれども、昔の精神衛生協会とか、富山県の精神科医会とか、病院、精神科病院協会とか、医師会、看護協会もそうですし、いろいろな関係団体の方に、快く設立について協力していただけました。それは、先輩たちが各職場の中でいろいろな関係者の方と良好な関係を作ってくださったから上手くいったんだなと思っていますよね。

田邊 その頃の心理士として働いておられた先輩方が信頼を築いていたんですね。

山野 私が会長のときにちょうど20周年、臨床心理士会も成人に達するというので、それまで、富山県精神福祉協会には随分お世話になって、補助金もその頃はいただいていたんですね。経済的にもなかなか自立できないということで、研修会を開くことについても助けていただいて。20年目のときに初めて補助金を辞退したんですけども。会員の方にも、いろんな事業に協力していただいて、関係を築いてきたなという思いはあります。

田邊 中塩さんは20周年記念講演会・祝賀会のときに運営に携わって、村瀬先生ともよく連絡を取られたと聞いているんですけども。

中塩 はい。臨床心理士になって、村瀬先生に憧れ続けていたので、20周年の会に来ていただいて本当に嬉しかったです。村瀬先生はご存じのように、全国でも、精神医療や司法のところで活躍し貢献していらっしゃるの、県内の病院とかいろいろ所から各種団体に参加していただいとてもありがたかったのと同時に、やはり20年、設立当初から地道に、地域とか社会とか、司法とか医療とか福祉とか、いろんな所で心理が地道に活躍、活動してきて、認められてきてるんだなということを実感した会でもありました。それがとても良かったなとしみじみと思い、これからも頑張っていこうという気持ちにさせられた会だったんじゃないですかね。

田邊 はい。ありがとうございます。20周年記念講演会・祝賀会の頃は、会員数が99名で、まだ100名いってなかったんですね。今は177名になって、この10年の間で、本当に増えていることになるんですけど、99名という規模は、山野さん、どんな感じでしたか。顔と名前が一致して、「ああ、あの方ね」みたいな。

山野 この頃から少し、なかなか顔と名前が一致しないという事はありました。それまでは結構距離が近くて、この方にこれを頼めばうまくいくとか、そういうことがイメージできたのが、新しい方が増えてくると、それがうまくいかないな

と。その中で関係が築けるような研修をどう作ればよいか随分苦勞したような気がしていますね。

田邊 だんだんと大きくなってきたなという実感を得るところで。

山野 そうですね。

田邊 20周年記念講演会・祝賀会の写真を見ますと、会場のパレブラン高志会館で、当時の副会長の廣本さんが祝賀会のあいさつをしていて、理事の糸川さんが司会、大平さんは講演会の進行でしょうか。会員で分担して運営にあたっていて、開催までに話し合いを重ねてこられたんだと思います。

念願の国家資格化

田邊 山野さんの次に会長を引き継がれたのが中塩さんで、中塩さんの代では大きなことが形になっ

ていくということがありました。

ずっと国家資格っていうのが話題には上がっていましたが、いよいよ、2017年の9月に、公認心理師が誕生するということで、それに応じて会の名称を変更した時の会長をされていたんですね。話がまとまっていくのに、いろいろとあったんじゃないかなと思うんですけども。

中塩 短い時間では語り切れないものがありました。

実際に働いてきた中で、私はずっと医療従事者だったんですけども、本当に、心理職の必要性とか重要性は認められてきていたんですね、社会の中で。阪神大震災や東北の大地震とか、いろいろな地震の中でのサポートを国から臨床心理士会が依頼を受けて、富山県からも派遣させていただきましたし。あらゆる面で、心理職が社会に必要



講演会であいさつする山野氏



講演会にて進行役の大平氏



祝賀会であいさつする廣本氏



祝賀会で進行役の糸川氏



20周年記念祝賀会のようす

なんだ、重要なんだっていうことが認められてきていたのですけれども、国家資格がないということで、作業療法士、精神保健福祉士、理学療法士といった他の職種が国家資格になっていく中で、心理は早くから国家資格化が言われながらも、10年、20年と先延ばしになっていった経緯がありまして。

私も実際、医療現場で働いていましたときに、看護師さんに、「私たちは国家資格で、あなたは国家資格じゃないのに、どうしてドクターはあなたと話をするのだ」というようなことを言われて、すごく悔しい思いをしたことがあります。

実力は、社会に貢献できたり、国民に貢献できたりしているところがあるんだけど、資格がないことで、他の職種と対等であるはず、あるべきはずの立場が得られなかったり、経済的な不安定を生み出していたというふうに思います。貢献度に伴わない状況になっていったんだと思います。切実な問題だったんじゃないかなと思います。

当時の会員も苦勞して、署名運動をしたり、議員さんをお願いに行ったり、最も心理士が苦手とする活動を随分しました。「ああ、こういうことって本当にするんだな」と思いながら、「国を動かすってことは大変なことなんだな」ということを実感しながら進めまして、ようやく法制化されました。

富山県公認心理師協会として再スタート

中塩 今はだいぶ人数が増えましたけれども、当時の47都道府県の中で、富山県は随分人数の少ないほうの会でした。県によって、臨床心理士会と公認心理師協会の二つ持っているとところもあれば、名前を併記しているところもあって、事情が随分違うものですから、富山県でも総会や理事会で何回も話し合いを重ねました。今までの心理を大切にしつつ、これからの心理職の広がり、希望を持って、「富山県公認心理師協会」という名前で、公認心理師と臨床心理士の二つの資格を持った会員が所属する会として再スタートしていこうとい

うことになった次第です。

二つの資格ではあるけれども心理職としては同じでありますし、心理職の専門家として補い合っけて助け合っけて協力し合っけて研鑽し合っけて、これから、社会とか国民とかいろいろなものに寄与していく義務が、私たちにはあるんじゃないかなと思います。

今まで河合隼雄先生から始まり、心理職がいかに人の生活の中に重要であるか必要であるかを認めていただいたのですから、もっと周知されて認知されて役立っていけるように、自己研鑽を続けながら、二つの資格ではありますけれども助け合っけて協力し合っけていく会になっていけばいいなと心から願っています。名前を変更するに至って、皆それぞれいろんな立場でいろんな思いがありますけれども、何かをなすときって、先を見据えているような思いを結び付けていくことが必要なんじゃないかなって。すごく痛みも伴いますけれども、希望もあるということだったように思います。これからは希望だけで、できたらいいかなと思っています。

田邊 希望だけで。心理専門職として一つにまとまって、皆さんで学び合いたいっていう願いが、この名称に込められているということがよく分かりました。ありがとうございました。



中塩氏



富山県公認心理師協会発足記念研修会のようす

沿革

- 1991年 富山県臨床心理士会設立 会員13名 谷野 幸子 会長（初代）就任
設立記念講演会「生と死の接点」 講師：河合 隼雄氏
- 1992年 会報「サイコロジストとやま」を創刊。以後毎年2回発行、関係機関・団体に配布
地域での活動を円滑にするため、賛助会員制度を開始
- 1995年 阪神淡路大震災サポートネットイン富山に参加
神戸の震災で富山県に避難してきた子どもたちの支援活動に携わる
文部省スクールカウンセラー活用調査研究委託事業に協力
- 1999年 高野 利明 会長就任
- 2001年 会員41名
設立10周年記念講演会「現代社会と心のケア～地域の中の臨床心理士～」 講師：河合 隼雄氏
富山県精神保健福祉協会に参加
富山県リハビリテーション研究懇話会に参加
富山県介護予防研究会に参加
富山県被害者支援連絡協議会に参加、他団体との連携を深める
- 2003年 置県120周年記念「福祉機器と地域リハビリテーションの未来展」に参画
- 2004年 うつ病対策協議会、うつ病出前講座に協力
- 2006年 とやま被害者支援センター設立に参画
日本精神障害者リハビリテーション学会（富山大会）運営に協力
自殺対策推進協議会に協力
- 2007年 富山うつプロジェクト、ストレス相談電話に協力
- 2008年 山野 俊一 会長就任
うつ克服普及啓発協働事業に協力
発達障害者等支援・特別支援教育総合推進事業に協力
- 2009年 「こころと暮らし、いのちの相談会」に参画
- 2010年 「ハートフル保育専門アドバイザー派遣モデル事業」が、児童青年家庭課から委託される
- 2011年 ニュージーランド地震被災者支援に携わる
東日本大震災で富山県に避難してきた子どもたちの支援活動に携わる
- 2011年 会員99名
設立20周年記念講演会「今、これからの心理臨床 チームワークと活動のひろがり」
講師：村瀬 嘉代子氏
- 2014年 中塩 真巳 会長就任
- 2017年 ホームページ開設
「ハートフル保育カウンセラー派遣事業」の委託を、富山県厚生部から受ける
- 2019年 会員167名
富山県公認心理師協会へ名称変更
入会資格の変更（公認心理師と臨床心理士）
富山県公認心理師協会発足記念研修会「公認心理師の意義と役割」 講師：徳丸 享氏
- 2020年 大平 泰子 会長就任
- 2021年 会員177名
- 2022年 設立30周年記念誌を発行

地域とのつながり —各種の団体と連携しています—

以下の事業に協力しました。

阪神淡路大震災サポートネットイン富山

富山県精神保健福祉協会

文部省スクールカウンセラー活用調査研究委託事業

富山県介護予防研究会

富山県リハビリテーション研究懇話会

富山県被害者支援連絡協議会

置県120周年記念「福祉機器と地域リハビリテーションの未来展」

富山被害者支援センター設立

うつ病対策協議会

うつ出前講座

自殺対策推進協議会

日本精神障害者リハビリテーション学会（富山大会）「こころと暮らし、いのちの相談会」

富山うつプロジェクト ストレス相談電話

うつ克服普及啓発協働事業

発達障害者等支援・特別支援教育総合推進事業

ハートフル保育カウンセラー派遣委託事業

ニュージーランド地震被災者支援

東日本大震災支援活動

心の健康出前講座

公立学校共済組合メンタルヘルスサポート事業

富山県公認心理師協会（旧 富山県臨床心理士会）
設立30周年 名称変更3周年 記念誌

2022年12月22日 発行

発 行 富山県公認心理師協会
〒930-0085
富山県富山市丸の内2-3-8 桜井ビル
<https://toyama-shinri.com/>

印刷所 株式会社タニグチ印刷
